

理事会議事録

日時：1998年10月3日（土）12時00分～13時00分

場所：山形大学教養教育1号館 会議室

出席者：奥田、岡村、定金、柴田一、田中、紀伊、尾中、加藤、有本、
沢、大橋、柴田晋、福島 出席者13名 欠席者2名

議事に先立ち署名人を選出

議長：奥田治之

署名人：柴田一成・田中培生

議事の経過及び結果

1. 前回（1998年7月4日）の理事会議事録が報告され、承認された。
2. 1998年秋季年会の報告が、加藤年会理事、柴田(晋)理事、沢教育理事、柴田(一)庶務理事よりなされ、今後改善すべき点などが議論された。

記者会見には6社約10名の報道関係者の出席があり、記者会見で紹介された4件とも何らかの形で報道された旨、報告された。

しかし、記者会見のやりかた、事前の資料の配布の仕方、記者会見以前に記者会見(予定の)内容の報道を認めるか否か、などに関して、今回、学会と報道関係者との間で少し混乱があり、記者会見を今後どのように運営していくかについて、今後の継続議題とすることとなった。

3. 新入会員(98年7月ー9月分正会員17名)の承認がなされた。
4. 新旧理事の引継を、来年1月15日(金)の理事会で行なうことになった。
5. その他

● 日本学術会議会員の池内了氏より、下記のことからについて奥田理事長に協力要請があり、天文学会として協力することを承認した。

要請内容は、日本学術会議の特別委員会『女性科学者の環境改善の推進』の活動に関するもので、女性科学者をめぐる国際比較のためのデータ提供等である。

データ収集等は教育委員会が対応することとし、学術会議との連絡役は天文研連委員加藤理事(来期は天文学会教育委員)が勤めることになった。

● 西はりま天文台の黒田台長から、ペルー在住の石塚睦氏の要請を受け、ペルーに教育用望遠鏡を寄贈しようと基金を募る運動を始めているが、天文学会も賛同団体として名を連ねて欲しい、との申し出があった。日本とペルーの友好の促進、および天文学の普及を図る観点からこの趣旨に賛同し、黒田氏の申し出を了承することになった。

● 天文学会が11月9日ー10日のLMSA天文研連シンポジウムの共催団体となる旨、了承された。

● 来年度の内地留学奨学金への応募がゼロだったことが報告され、応募者を増やすためには内規を改善する必要があるということで、委員会より理事会へ内規改善の要望が出ている旨、紹介された。

種々議論ののち、この件は、次期理事会への継続議題とすることとなった。

1998年10月20日 社団法人 日本天文学会
議長：奥田治之